

科目 1 老後 貴方はどこで暮らしたい？

「ふれあい教室」

科目 1

老後 貴方はどこで暮らしたい？

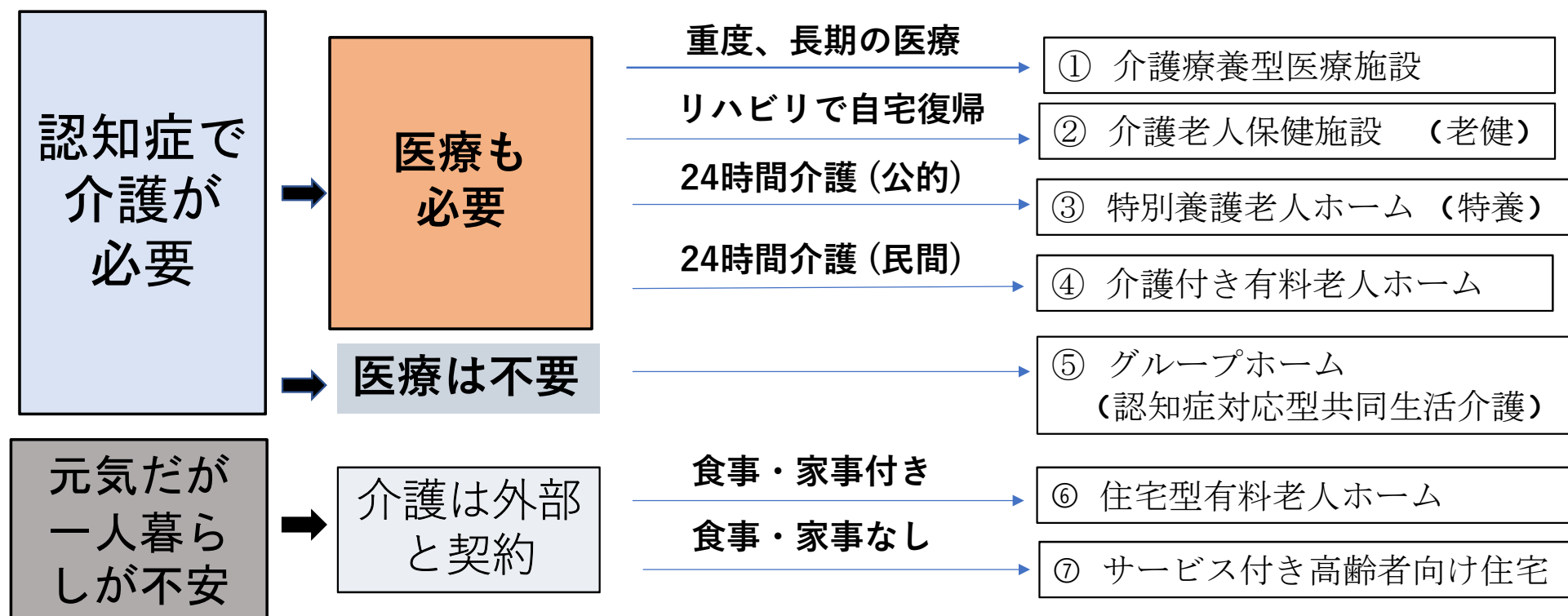
自 宅 or 施 設

介護度が重くなり、家族が自宅で介護することが難しくなるようなら施設入居も検討しましょう。

施設を選ぶ基準は医療、認知症対応の必要性、ケアの目的、予算などがあります。

居住系 施設 の 紹 介

施設選びの基準、対応内容



各施設のサービス

① 介護療養型医療施設

② 介護老人保健施設（老健）

③ 特別養護老人ホーム（特養）

④ 介護付き有料老人ホーム

⑤ グループホーム
（認知症対応型共同生活介護）

⑥ 住宅型有料老人ホーム

⑦ サービス付き高齢者向け住宅

公的施設

民間施設

① 介護療養型医療施設 (介護医療院)

比較的重度の要介護者や長期療養が必要な方

医療ケアとリハビリを提供する病院・診療所に
入院するというイメージ

初期費用 不要 月額費用 5万～25万円
(収入などによる)

② 介護老人保健施設（老健）

病気などで入院生活を送った後、自宅で暮らすのが難しい方が復帰できるよう、医療ケアとリハビリ、介護などを提供する施設

（3～6ヶ月の短期間の利用を想定）

初期費用 不要 月額費用 10万～15万円

③ 特別養護老人ホーム (特養)

公営の老人ホームで介護老人福祉施設とも呼ばれている

介護やリハビリが受けられ、入居一時金もなく介護保険が適用されて月額が抑えられるため人気がある

待機者が多いため、入居条件は厳しい

初期費用 不要 月額費用 10万～15万円
(収入などによる)

④ 介護付き有料老人ホーム

民営の老人ホーム

介護サービスは施設に勤務するケアマネジャーがケアプランを作成し、施設に常駐する介護職員が実施する

日常生活の世話や機能訓練、療養上の世話などのサービスそのものが介護保険の対象となる

初期費用 0～数千万円 月額費用 10万～50万円

⑤ グループホーム

(認知症対応型共同生活介護)

認知症の高齢者が、少人数の家庭的な共同生活を通じて

日常的な機能訓練を行いながら自立した生活を送り

認知症状の緩和や進行の予防につなげようとする

初期費用 0～数百万円 月額費用 10万～40万円

⑥ 住宅型有料老人ホーム

介護付き有料老人ホームに、介護サービスがつかないイメージ

老人ホームとして、食事や掃除・洗濯といった日常生活上の世話は提供するが、介護職員が常駐しないため介護サービスは提供しない

初期費用 0～数千万円 月額費用 10万～30万円

⑦ サービス付き高齢者向け住宅

バリアフリーの賃貸住宅で、安否確認・生活相談サービスがあり

食事・介護・家事・健康管理の提供はない
まだ、介護の必要はないけど自宅での一人暮らしは不安という方に向いている

初期費用 数10万～数百万円 月額費用 10万～40万円

ショートステイ の 紹 介

(短期入所生活介護)
(短期入所療養介護)

ショートステイとは

利用者が短期間だけ施設に入所して、日常生活全般にかかわる介護を受けるサービスで

日常生活の介護を行う「短期入所生活介護」と
医療的なサポートも行える「短期入所療養介護」の
2種類があり

どちらも1回あたりの利用可能日数は最大で連続30日です

ショートステイの利用目的

宿泊機能を持つ施設に短期間入所して、食事・入浴・排泄など

日常生活に関わるお世話を提供してもらえるため
常に介護が必要な方の生活をサポートすることで
介護者(家族)の負担を軽減するのが利用目的です

ショートステイのメリット・デメリット

メリット

最大のメリットは、自宅で介護している家族の負担を減らせることです

また、将来的に施設への入居を考えている場合、ショートステイの利用を通じて、施設での生活を体験できる
いわば、施設入所の予行演習となります

デメリット

予約が取りにくいという点があります。

介護者の急な用事で利用が必要になっても希望通りの利用ができない

また、

滞在期間が短いため施設での友人がつくりにくいという点もあり、滞在中の不安・ストレスから認知症を発症している人だと症状が進行してしまうケースも有るようです

通所介護 の 紹 介

(デイサービス)
(デイケア)

施設などに出掛けて日帰りで受けるサービスです

デイサービス と デイケア は、同じ通所系の介護サービスですが、

共通するサービスと独自のサービスがあります

これらを比較し、どちらを選ぶか参考にしてください

デイサービスを推奨（通所介護）

- 加齢による体力低下や身体機能の低下が見られる方
- 他人との交流を望む方、家にこもりがちな方
- 認知症のある方

デイケアを推奨（通所リハビリテーション）

- 脳血管疾患の後遺症や神経難病、呼吸器の病気が有る方
- 骨折、変形性関節症などで通院している方
- 入院により低下した体力回復を望まれている方

小規模多機能型居宅介護 の 紹 介

小規模多機能型居宅介護とは

同一の介護事業者が「デイサービス」「ショートステイ」「ホームヘルプ」を一体的に提供する介護サービスです

但し、これまで利用できた「居宅介護支援」「訪問介護」「訪問入浴介護」「デイケア」「デイサービス」「ショートステイ」を併用出来なくなります

小規模多機能型居宅介護はどんな人に向いているか

- ・ 住み慣れた地域で介護サービスを受けたい
- ・ 利用するサービスによってスタッフが変わるのは不安
- ・ デイサービスの利用で朝から夕方まででは長すぎる
- ・ 時間や回数を気にせず訪問サービスを利用したい
- ・ 日によって体調の変化が大きく、柔軟にサービスを利用したい
- ・ 退院後のサポートをしてほしい

訪問介護 の 紹介

(ホームヘルプサービス)

自宅に訪問してもらい介護を受けるサービス

訪問入浴・訪問看護・訪問リハビリテーション など

おわり